

第 1 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和2年7月7日

会議要録

令和2年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

| | | |
|----------|--|--|
| 会議体の名称 | 令和2年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 | |
| 事務局(担当課) | 島田市市長戦略部戦略推進課 | |
| 開催日時 | 令和2年7月7日(火) 15:30~17:00 | |
| 開催場所 | 島田市役所4階第3委員会室 | |
| 議題 | <協議事項> (1) 第1期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について <報告事項> (1) 令和元年島田市人口動態結果について | |
| 出席者 | 創生市民会議 構成員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市自治会連合会 竹林常務理事 ・ 島田青年会議所 齊藤理事長(代理出席 池ヶ谷専務理事) ・ (株)FM島田 八木社長 ・ 島田市小中学校PTA連絡協議会 安藤会長 ・ NPOクロスメディアしまだ 大石理事長 ・ 島田商工会議所 大久保会頭 ・ 島田市商工会 岡村会長(欠席) ・ 島田市観光協会 村田副会長 ・ 島田市農業経営振興会 仲田会長 ・ 島田高等学校 鈴木校長 ・ 島田市校長会 池谷会長(島田第二中学校長) ・ 島田掛川信用金庫 三浦理事 ・ 島田・榛北地区労働者福祉協議会 鈴木会長 ・ 島田公共職業安定所 伊藤所長 ・ 静岡県立大学(学生)土屋まどか(食品栄養科学部4年) ・ 山本さくら(経営情報学部4年) ・ 長瀬合央(国際関係学部3年) ・ 県立島田高等学校(生徒)山中美空(2年)(欠席) ・ 県立島田高等学校(生徒)山本美咲(2年)(欠席) ・ 島田市 染谷市長 |
| | オブザーバー | 静岡県中部地域局 塚本局長 |
| | 事務局 | 島田市市長戦略部戦略推進課 駒形、興津、永田、酒井 |
| | 市関係者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牛尾副市長 ・ 濱田教育長 ・ 鈴木市長戦略部長 |
| 配付資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員名簿 ・ 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 【資料1】 第1期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総合評価について 【資料2】 (参考資料) 島田市人口推計及び目標人口との比較 【資料3】 令和元年(2019)における島田市の人口動向について 【資料4】 転入者・転出者アンケート結果について | |

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます島田市市長戦略部長の鈴木と申します。よろしくお願ひいたします。それでは、定刻となりましたので、ただ今から、「令和2年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。

それでは、島田市長の染谷から、御挨拶を申しあげます。染谷市長よろしくお願ひします。

○市長 皆様、こんにちは。市長の染谷でございます。

本日は御多用の中、第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、今回、新たに構成員となられました皆様につきましては、本会議に御参画いただき、大変嬉しく思っております。

さて、この会議は、本市の特徴を生かし持続可能な社会を創生する、まさに、官民一体となって地方創生の実現に向けて歩みを進めていくことを目的に設置されたものであります。

平成27年5月に第1回会議を開催し、同年10月には、皆様の意見を汲み取った「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しました。

昨年度は、第1期総合戦略の計画期間の満了に伴って、令和2年度からの「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改定版」及び「第2期総合戦略」を策定しました。

この計画では、2060年における島田市の人口目標を、引き続き8万人に定め、新たな5年間の計画期間における主要な施策等を位置づけたところであります。

今年度は、「第2期総合戦略」の開始年度として、同時に、これまで5年間実施してきた「第1期総合戦略」を総合的に評価、検証する年として、まさに、要の年となります。

こうした中で、例えば良いニュースとして挙げられるものは、島田市では、30歳代及び9歳以下の年代の人口において、転入が転出を上回る「転入超過」傾向が、6年続いていることです。これは、子育てで支援や移住・定住促進といった地方創生に向けた取組が成果として現れた一例と考えています。今後もこのような成果を継続できるよう、構成員の皆様と協働・連携を図って参りたいと考えています。

さて、本日の会議では、先ほど申し上げた、「第1期総合戦略の5年間の総合評価方法」について、皆様から御意見を頂戴したいと思います。

また、会議後半は、構成員の皆様との自由な意見交換の時間とさせていただきますと考えております。

本日はよろしくお願ひいたします。

○市長戦略部長 ありがとうございました。

続きまして、本年度初めての市民会議でありますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。

全ての皆様から御挨拶をお願いしたいと思います。

(会議出席者自己紹介)

○市長戦略部長 ありがとうございます。

なお、本日は、島田市商工会長 岡村修様、金谷高等学校 山中美空様、山本美咲様が、所用により欠席となっております。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。議事を進めるにあたりましては、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱第3条に基づき、議長を染谷市長をお願いしたいと思います。

<議事(協議事項) (1)>

○市長 それでは、議長を務めさせていただきます。

皆様、よろしく申し上げます。早速、議事に入ります。

本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する協議事項が1点、人口動向に関する報告事項が1点ございます。

まず、はじめに、協議事項「第1期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について」事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料1、資料2の説明

総合戦略の成り立ちと、第1期総合戦略の単年度及び5か年の総合評価の評価方法について説明

- ・島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の説明
- ・評価・検証(PDCAサイクル)の説明
- ・評価基準の説明

○市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

○A構成員 静岡県の中部地区では島田市、静岡市、藤枝市が人口増加していると知り、施策の効果を実感することができた。今後も継続して取り組んでいただくことに期待している。

○B構成員 評価結果を見て、思っていたより人口が減っていないと安心した。日本中で人口減少が止められない中で、このような結果が得られるのは、島田市が魅力のあるまちということの評価と感じた。

○C構成員 自然増減の資料を見て、出生数は伸びていないが、亡くなっている人もそこまで増えていないと思った。喜ばしいことではあるが、高齢化が進んでいるということであり、こういったことも考慮していかなくてはならない。

○市長 高齢化率 31%になりました。75歳以上の後期高齢者の方が前期高齢者より多い状況ですが、長寿で健康ということが言えます。

- C 構成員 このデータからは、健康長寿の分野も取組成果が出ているのではと思った。
- 市長 ありがとうございました。委員の皆様からいただきました御意見につきましては、次回8月の第2回会議でお示しする評価書案に反映して参ります。
- <議事（報告事項）（1）>
- 市長 続きまして、報告事項（1）令和元年 島田市人口動態結果について事務局から説明をお願いします。
- 事務局 資料3, 4の説明
令和元年の人口動向、転入者転出者アンケート結果について説明
- 市長 ありがとうございました。ただいまの説明について、質疑、御意見等ございませんか。
- C 構成員 転入の理由として、働く場所が上位にあがっている。働く場所があれば人が増える。これをいかに増やすかというところ。色々な分析をしているようなので、アンケート結果に目を付けて更に施策を打っていくと良い。
- D 構成員 ちょっとしたことでも相当な勢いで人は動く。これからも様々なことを分析して、住みやすいまちづくりになるように検討し、施策を打ってほしい。当会としては、会員が元気であることで、仕事をつくっていくことができる。それぞれが自分の役割を果たし、一丸となることで、下っていく時代を緩和することができる。
- E 構成員 コロナの影響でリモートワークが増えている。川根にあるコテージで、ネットワークを整えてリモートワークができると人が流れて良いのでは。
- 市長 補足ですが、島田市は笹間まで含めて市内全域で光通信が通っているため、リモートワークができる環境は整っています。
- F 構成員 資料4のアンケート結果で「交通の便がよい」が新しくランクインしたがなぜか。交通の便が良いというのは具体的にどのようなことが考えられるか。
- 市長 JR島田駅始発の電車が多く、朝座って電車に乗り、通学・通勤できることもあると思います。そういったことが影響しているのでは。
- 事務局 何か変化があったか調べたところ、昨年度は静岡空港で北九州線が運行したり、出雲線が増便したりしました。また、運営会社が変わり、その際に空港のPRを広く行ったため、静岡空港という存在が市内外の人々の目に留まる

ことが多かったのではないかと考えられます。

- G 構成員 働く場所ができるだけ近いと便利である。大企業を誘致して一気に雇用創出ができるるとよいのだが、時間もかかる。中小企業の支援や働きやすさの改善を継続して、少しずつでもやっていくことが近道と思う。
- H 構成員 説明を聞いても 20 代の転出に目がいってしまう。「しごと」となると、島田市以外の選択肢を考えてしまう人はやっぱりいる。島田市の人が島田市に就職すると得られる特典があったりするののか。
- 事務局 島田市で就職することで特典を与えるような制度はないが、小中学校では夢育知育という教育、高校とは包括連携協定を締結し、島田市に愛着を持つ子どもたちを育成し、一度島田市を出ても戻ってきてもらうような施策を展開しています。
- 市長 その他にも LINE を使い、島田市で働く先輩の体験談や感想を発信しています。もしよかったら、どうして島田市を出ていきたいと思うのか若い方の意見を教えてもらえますか。
- H 構成員 自分の場合は、チャレンジ精神があるため、外に出てみたいという好奇心によるところが大きい。回りの人からは、東京へ憧れがある、好きな店がたくさんあるなどの理由を聞くことが多い。しかし、いずれは住み慣れたまちに戻りたいという声も聞くことがある。
- 市長 女性が正規で働きたいと思える職種や会社が地方には無いからか、という理由もあるのではと考えています。都会に憧れがあり、島田駅前に大きなショッピングセンターをつくったらどうか、もっと遊ぶところが欲しいという若者の声もありますが、それでは島田市が「小さな東京」になってしまいます。小規模なものには魅力を感じず、結局、大都会へ憧れる。「小さな東京」を作るのではなく、島田市の魅力、島田の良さを追求し、他にはないまち、選んでもらえる島田をつくるのがこれからの課題です。
- B 構成員 島田市は県の東京事務所に情報を出していると思うが、島田市がいかに住みやすいまちであるか、というPRのデータをどれだけ置いているのか。
- 市長 有楽町の交通会館内のふるさと会議センターで 47 都道府県が参加しています。就職や移住定住の相談を受けるのはもちろんのこと、実際に島田市に移住定住した人々に移住定住フェアに参加してもらうなどして、情報発信しています。
- B 構成員 島田市に興味を示すような方、年間の利用度はどれくらいか。コロナで地方に帰りたいという学生さんの気持ちが大きくなっていると思うので、充実した情報発信をお願いしたい。

- 事務局 利用度については現在数字が分からないので、次回お示しします。
- 市長 補足ですが、現在、リモートでの移住定住相談会の実施を検討しています。
- I 構成員 コロナの影響なのか待機児童急激に増えているように思える。こういったところに影響が出ているのか。
- 事務局 待機児童数ですが、実績を測る時点が毎年度の4月1日時点となっています。保育園の待機児童数については、H30年度には一度ゼロになっているものの、令和元年度評価では、平成31年4月1日時点で増加になってしまう結果となりました。しかし、令和2年4月1日時点では3人まで減っている状況です。
- 市長 保育園の待機児童は、定員数を大幅に増やし成果は出ています。放課後児童クラブも大幅に定員数を増やしているが、働くお母さんが増え、需要が増えていること、また、放課後児童クラブは、これまで小学校3年生までが対象だったところ、小学校6年生までを預かりの対象としたことにより、希望する人の数がとても増えて、定員の増加に追い付いていないのが現状です。また、施設を増やすだけでなく指導員の確保や夏休みだけ利用する児童への対応も必要となります。
- 市長 続きまして、次第の5「意見交換」に移ります。
協議事項や報告事項に対する御意見、御感想及び御提案等、なんでも構いませんので、自由に御発言ください。
- J 構成員 外国人が増えていると言っていたが、コロナの影響でこれから減ってしまうのではないかと懸念される。自分には娘が3人おり、うち2人は東京でリモートで働いている。リモートなら島田市でも働けるのでは、と聞いたところ、何か補助があれば島田市でも働けるんじゃないか、と言っていた。
交通の便がよいというところは、島田市の強みでもあり、注目すべきところである。
- K 構成員 コロナの影響で、今後総合戦略の数値も全て低い数値になるだろう。そのため、来年度以降は前年比だけを見るのではなく、ここをスタートとしてみていけば良いと思う。
大きな災害の中で、大都会のリスクが顕著になっている中、新しい社会構造へと変革可能になる。リスク回避のためリモート利用、ネットを使った観光につながるPR、ICTを導入した子育てにつながるネットワークなど、コロナによりニーズがあり、攻めていける項目や分野がある。このような取組に対して減税や補助金を使い、先取して戦略としていくことが必要。
教育では、島田市は国際交流で多くの国と交流を行っている。学校の中も

モンゴル、フィリピン、南米系、韓国、中国などと多国籍化している。
このような国の優秀な人材を学校や企業の留学制度により、取り入れていくことが必要。共生社会を進めるためには、共生社会の根本的なところを教育の分野でも努力し、やっていかないといけない。

○事務局 東京一極集中が危険だということコロナ渦で多くの人を感じ、国はコロナ対策の地方創生臨時交付金の取組を行います。島田市も 11 億円程度入ってくる予定です。先ほど意見のあったリモートワークやワーケーションも島田市としても行っていく必要があると検討を進めています。コロナの中で地方創生を進めていきたいと考えています。

○市長 今までの話の中で、キーワードや考えていかなければならないことが出てきました。
例えば共生社会。今まで島田市の総合計画には多文化共生という言葉はありませんでしたが、第 2 次島田市総合計画後期基本計画には多文化共生を位置付けて盛り込んでいきたいと考えています。
リモートワークは実施する環境は整っている。そこに呼び込むために補助金が良いのか、企業誘致が良いのか。サテライトスタジオのようなオフィスを準備して働いてもらうことも考えられます。リモートワークで島田市が優位性を持てるか検討しています。

○D 構成員 アジアから優秀な人材が来ている。スペインからも採用している人材もいる。人口が減っていく中で、海外から優秀な人に来てもらい、この地で活躍してもらうことが大事。
外国人を受け入れる風土が日本人は低い。交流してお互いの文化を理解するという広い気持ちで接することができないと、日本に来た外国人も帰ってしまうことが考えられる。会社の中でも一緒にやっというやっという。

○L 構成員 今までの意見や提供されたデータを見ても島田市は住みやすいと思う。保育・教育に力を入れている。平野部で災害が少ない。通勤しやすい。土地の価格も安い。静岡で仕事をする人が静岡に住む場合、土地の価格を考えると賃貸になることがあるが、島田に住むのであれば、一戸建てをすることもできる。
このような住みやすい色々な項目をアピールしていく必要がある。

○市長 行政が行う施策以外の部分もパッケージにしてアピールしていかなければならないと感じました。

○M 構成員 転出入アンケートの中の理由の上位項目は、全国共通だと思う。島田市の魅力を発信し、若い子たちが島田市に戻りたいと思える取組を行うことができると良い。結果はすぐには出ないことも考えられるが 10 年、20 年先にこのようなアンケートの結果で、転入理由で「このまちが好きだから」とな

れば成果が表れていると思う。

- N 構成員 子育てしている親として島田市は自然が多くコロナの騒動の中でも散歩をしたり、気分転換をしたりすることができ、環境が良い。当たり前で安心して暮らすことができる。市内に住んでいる人がこのような島田の良いところを市外の人たちにアピールしていけたら良いと思う。
- O 構成員 JRを利用して通勤しているが、朝、島田駅から乗車する人が多くいて、島田に住んでいて電車を利用する人が多くいると感じていた。母親への就労支援としてママハロが市役所内にあるのも良いところ。駅前に大型の店舗などではなく、通勤時に昼飯を買えるようなお店があると良いと思った。
- A 構成員 島田市は地域の中で助け合える、支え合える、人との距離が近いのが魅力。都会では何かあったときにすぐに助けてくれる人がいなかったりする。人との距離が近いことによる魅力を作っていくのは、自治会や地域コミュニティ、地域活動を行っている人が重要な役割を果たしている。地方創生臨時交付金の中でも、「しごと」の部分の支援も重要であるが、地域でコロナ対策の中で新しい課題を解決しようとする人たちへのメニューを考えてもらえると良いと思った。
- I 構成員 創業者数が増加となっている。4年前から産業支援センターで年間1,200人位が相談に来ていて、新しい活力となる創業者が増えてきているのは素晴らしいことだと思った。
- G 構成員 子育て中の親にとって安心して住める、子どもを守れる環境は重要だと話を聞いていて思った。犯罪率などが低ければアピールできる。自治会や地域で子どもを守れるまち。これを魅力として力を注いでいけたら良いと思った。
- 事務局 島田市は、県内の市の中で犯罪率が低く、安心・安全なまちといえると思います。
- 市長 島田市は、持ち家率は県内で1位です。県内の中で長泉町も子育て支援に力を入れていますが、長泉町は転勤による転入者が多いものの、島田市は定住して転入する者が多いです。島田市は行政だけでなく、市民団体が子育て支援に熱心に活動していることも大きいと考えられます。
- 市長 まだまだ御意見は尽きないかと思いますが、予定の時間となりました。最後にオブザーバーとして御参加いただいております中部地域局塚本局長様から本日の会議全体を通して御意見をいただきたいと思います。

○塚本局長

簡単に3点お伝えします。

1点目は市長の話の中であった「小さな東京」にならないことです。行政の考え方で東京のようなモデルを真似することは簡単ですが、これはいくらやっても追いつかない。「島田らしさを目指す」ことは、全国の首長がなかなか取り組めないハードルが高いところに取り組んでいることを感じました。

2点目は9歳以下、30代が6年連続で転入超過となっていることです。親育や子育てなど行政の取組とNPOや地域の取組の長い間の成果として表れています。

3点目はアフターコロナの関係です。今まで掛け声だけだったWebの活用やテレワークなどに強制的に取り組むことになり、ハードルが低くなりました。また、巣籠生活の中で仕事以外の家族と過ごす時間や趣味に費やす時間を見直すきっかけになりました。この2つのことにより、都会から地方への志向になっていくと思います。

島田市は地域の魅力と相まって、今後更に地元へ戻ってきてくれる人が増えるのではないかと期待を感じました。

○市長

塚本局長ありがとうございました。

本日は、皆様からも前向きな意見、提案が出され、とても有意義な意見交換の時間になったと思います。

本日、皆様からいただいた御意見については、今後のまちづくりに生かして参ります。

皆様の御協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。ありがとうございました。

それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長

ありがとうございました。

最後に、次回、市民会議の予定ですが、本日の次第、「その他」欄にも書いてありますが、8月20日（木）午後3時00分から、この会場での開催を予定しております。

委員の皆様には、近くなりましたら、改めて御連絡をさせていただきます。それでは、以上をもちまして「令和2年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。

本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

～終了（17:00）～